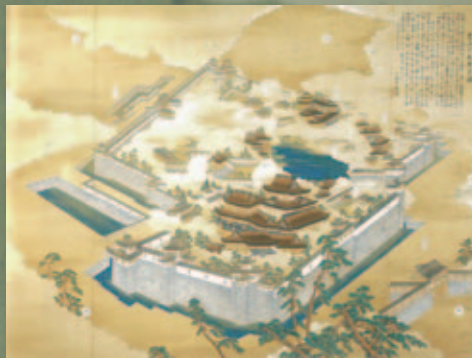




■ 錦絵 真柴久吉公  
播州姫路城郭築之図  
(五雲亭貞秀画)

天正5(1577)年から中国攻めのために播州に赴いた羽柴秀吉は、黒田官兵衛の居城であった姫路城を譲り受け、その拠点として姫路城を修築した。その際、秀吉は姫路城に天守を建てたと伝えられる。



■ 聚楽第図

聚楽第は、秀吉が京都における関白公邸として城郭様式で新築したもの。この建物にも黄金を貼り付けた金箔瓦が使われていた。秀吉はここで全国の大名を従えて、後陽成天皇の行幸を仰いだ。関白職とともに聚楽第をゆずられた秀次も、秀吉同様、後陽成天皇を招待して聚楽行幸を主催。以降、ここが関白秀次の政庁となった。この豪華な邸宅は、秀次事件の後、秀吉の命令で破却された。「聚楽」とは「長生不死の楽しみを聚(あつ)むる」意である。



■ 金箔押菊文大飾瓦

大坂城の建物に使われていた金箔瓦。火災のため溶けおちているが、菊文の全面に金箔が押されていたことが明瞭にわかり、秀吉時代大坂城の豪華華麗なありさまが想像できる。直径45センチにもおよぶこれほど大きな金箔瓦はめずらしい。天守や本丸御殿など重要な建物に使用されていたものであろう。

イベント情報

大阪城天守閣の秋まつり

- 日時 11月3日(土・祝)、4日(日)  
10:00~16:00 ※雨天中止
- 場所 天守閣前本丸広場特設ステージ  
および天守閣内
- 費用 無料(入館料別)



大阪城天守閣をバックに華やかな踊りや演奏など多彩なステージイベントが繰り広げられます。また天守閣2階会議室では、11月4日(日)11:00~12:00に大阪城天守閣館長による特別展「秀吉の城」の講演会を開催します(当日先着60名)。

◆ 学芸員のおススメコレクション ◆

大阪文化財研究所 高松藩大坂蔵屋敷跡出土の角筆

「角筆」<sup>かくひつ</sup>とは、墨を使わず筆圧で紙をくぼませて文字を書く筆記具です。文書に自分なりのふりがなや返り点をつけるために使われました。2010年に高松藩大坂蔵屋敷跡(大阪市北区中之島)の発掘調査で出土した角筆は骨角製で全長約13cm、毛筆のような形をしています。左側の角筆は先がちびて、よく使われていることがわかります。角筆文字は紙を透かさないと見えないため、公表できない秘密の記録にも用いられました。近年の研究では、明治2年(1869)に旧高松藩で起こった勤王派<sup>きんのう</sup>と佐幕派<sup>さぼく</sup>の抗争をめぐる記録に角筆が使われたことがわかっています。この角筆ではなにか記録されたのでしょうか。興味は尽きません。(大阪文化財研究所主任学芸員 松本百合子)

※本品は、平成22・23年度に大阪市内で行った発掘調査を紹介する特集展示「新発見! なにわの考古学2012」にて10月22日(月)まで展示中です。(会場:大阪歴史博物館 地下鉄「谷町四丁目」9号出口前  
TEL: 06-6946-5728 FAX: 06-6946-2662 ホームページ: <http://www.mus-his.city.osaka.jp/>)



高松藩大坂蔵屋敷の角筆 江戸時代後期 大阪文化財研究所保管